

第Ⅴ章 普天間飛行場跡地利用計画中間取りまとめ(第2回)
検討委員会の開催補助

第V章 普天間飛行場跡地利用計画中間取りまとめ(第2回)検討委員会の開催補助

本章では、今年度開催した「普天間飛行場跡地利用計画中間取りまとめ(第2回)検討委員会」について、各検討委員会の概要、主な意見及びその対応について整理した。

1. 検討委員会の実施概要

(1) 目的

昨年度作成した「全体計画の中間取りまとめ(事務局案)」をもとに、「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」の策定に向けた「全体計画の中間取りまとめ(第2回)(委員会案)」作成に向けて議論や意見交換を行うため、沖縄県と宜野湾市主催で開催された「普天間飛行場跡地利用計画中間取りまとめ(第2回)検討委員会」の開催補助を行った。

検討委員会は、令和3年11月、令和4年1月及び2月の計3回開催した。第1回検討委員会では、昨年度作成した「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」の「事務局案」を説明のうえ「委員会案」作成に向けた見直し点を確認した。第2回検討委員会では、「委員会素案」を提示し、そこでの委員からの意見を踏まえて「委員会案」の案を作成し、第3回検討委員会で確認した。なお、令和4年3月に作成した「委員会案」は、第3回検討委員会における委員からの意見を反映したものとなっている。

(2) 委員名簿

(敬称略)

	区分	氏名	所属・役職等	分野
1	有識者 (委員長)	岸井 隆幸	日本大学 理工学部 特任教授	都市開発 都市交通
2	有識者 (副委員長)	池田 孝之	琉球大学 名誉教授	都市計画 公園緑地
3	有識者	池田 榮史	國學院大學 研究開発推進機構 教授	考古学 琉球文化
4	有識者	宮城 邦治	沖縄国際大学 名誉教授	自然環境
5	有識者	小野 尋子	琉球大学 工学部 教授	都市計画
6	有識者	真喜屋 美樹	沖縄持続的発展研究所 所長	都市政策
7	各種団体代表	下地 芳郎	沖縄観光コンベンションビューロー 会長	観光 国際交流
8	各種団体代表	知念 克也	沖縄県情報通信関連産業団体連合会 会長	情報
9	各種団体代表	金城 傑	(公社) 沖縄県建築士会 会長	建築
10	市民関係者	呉屋 勝広	ねたてのまちベースミーティング 会長	市民関係者
11	地権者関係者	大川 正彦	普天間飛行場の跡地を考える若手の会 会長	地権者関係者
12	地権者代表	又吉 信一	宜野湾市軍用地等地主会 会長	地権者
13	行政	宮城 力	沖縄県 企画部長	企画
14	行政	松田 了	沖縄県 環境部長	環境
15	行政	嘉数 登	沖縄県 商工労働部長	産業・情報
16	行政	島袋 善明	沖縄県 土木建築部長	土木・建築
17	行政	安藤 陽	宜野湾市 理事兼企画部長	企画
18	行政	石川 康成	宜野湾市 建設部長	建設
19	行政	国吉 孝博	宜野湾市 市民経済部長	市民経済
20	行政	米須 良清	宜野湾市 基地政策部長	基地政策
	オブザーバー	館 圭輔	内閣府政策統括官(沖縄政策担当) 付 参事官(政策調整担当) 付企画官	
	オブザーバー	長嶺 光男	沖縄総合事務局 総務部 跡地利用対策課長	

(3) 検討委員会の概要

① 第1回 普天間飛行場跡地利用計画中間取りまとめ(第2回)検討委員会

表V-1 第1回検討委員会の開催状況

開催日等	<ul style="list-style-type: none"> ●日時：令和3年11月5日(金) 14:00~16:00 ●場所：P's SQUARE 5階会議室
検討内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」作成に向けた進め方について 2. 「全体計画の中間取りまとめ(第2回)(委員会案)」の作成に向けて
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・検討委員会設置要綱 ・委員名簿 ・座席表 ・「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」策定に向けた進め方(案) ・「全体計画の中間取りまとめ(第2回)(事務局案)」の概要 ・事務局案作成以降の動き(策定・改定作業中の上位計画の概要) ・「委員会案」作成に向けた見直し点(案) ・【別添】「全体計画の中間取りまとめ(第2回)(事務局案)」計画書本編 ・【別添】「全体計画の中間取りまとめ(第2回)(事務局案)」新旧対照表
出席者 (敬称略)	<p>(現地出席)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岸井 隆幸 ・池田 孝之 ・宮城 邦治 ・小野 尋子 ・真喜屋 美樹 ・金城 傑 ・呉屋 勝広 ・大川 正彦 ・又吉 信一 ・宮城 力 ・安藤 陽 ・石川 康成 ・国吉 孝博 ・米須 良清 ・長嶺 光男 <p>(リモート参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池田 榮史 ・知念 克也 ・松田 了 ・嘉数 登 ・島袋 善明 ・館 圭輔 <p>(欠席者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下地 芳郎

② 第2回 普天間飛行場跡地利用計画中間取りまとめ(第2回)検討委員会

表V-2 第2回検討委員会の開催状況

開催日等	<ul style="list-style-type: none"> ●日時：令和4年1月12日(水) 14:00~16:30 ●場所：コンベンションセンター 会議棟B5, B6, B7
検討内容	<p>1. 「全体計画の中間取りまとめ(第2回)(委員会素案)」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回検討委員会における主な意見と対応状況 ・委員会素案の概要について ・情報発信ツールについて
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・検討委員会設置要綱 ・委員名簿 ・第1回検討委員会議事録 ・座席表 ・全体計画の中間取りまとめ(第2回)(委員会素案)の概要 ・全体計画の中間取りまとめ(第2回)(委員会素案) ・全体計画の中間取りまとめ(第2回)(委員会素案)参考資料 ・全体計画の中間取りまとめ(第2回)(委員会素案)新旧対照表 ・全体計画の中間取りまとめ(第2回)(委員会案)パンフレット(案) ・各土地利用ゾーンのイメージスケッチ(案)
出席者 (敬称略)	<p>(現地出席)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呉屋 勝広 ・又吉 信一 ・呉屋 力(大川 正彦代理) ・宮城 力 ・米須 良清 <p>(リモート参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岸井 隆幸 ・池田 孝之 ・池田 榮史 ・宮城 邦治 ・小野 尋子 ・真喜屋 美樹 ・下地 芳郎 ・知念 克也 ・金城 傑 ・松田 了 ・下地 誠(嘉数 登代理) ・内間 玄(島袋 善明代理) ・安藤 陽 ・石川 康成 ・国吉 孝博 ・館 圭輔 ・下地 章太(長嶺 光男代理)

③ 第3回 普天間飛行場跡地利用計画中間取りまとめ(第2回)検討委員会

表V-3 第3回検討委員会の開催状況

開催日等	<ul style="list-style-type: none"> ●日時：令和4年2月8日(火) 14:00~16:30 ●場所：コンベンションセンター 会議棟B5, B6, B7
検討内容	<p>1. 「全体計画の中間取りまとめ(第2回)(委員会案)」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回検討委員会における主な意見と対応状況 ・「全体確認の中間取りまとめ(第2回)(委員会案)の確認 ・情報発信ツールについて
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・検討委員会設置要綱 ・委員名簿 ・第2回検討委員会議事録 ・座席表 ・第2回検討委員会における主な意見等に対する対応 ・全体計画の中間取りまとめ(第2回)(委員会案) ・全体計画の中間取りまとめ(第2回)(委員会案)参考資料 ・全体計画の中間取りまとめ(第2回)(委員会案)新旧対照表 ・全体計画の中間取りまとめ(第2回)(委員会案)パンフレット(案) ・全体計画の中間取りまとめ(第2回)プロモーションビデオ(PV)構成(案)
出席者 (敬称略)	<p>(現地出席)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呉屋 勝広 ・又吉 信一 ・宮城 力 ・米須 良清 <p>(リモート参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岸井 隆幸 ・池田 孝之 ・池田 榮史 ・宮城 邦治 ・小野 尋子 ・真喜屋 美樹 ・知念 克也 ・金城 傑 ・呉屋 力(大川 正彦代理) ・松田 了 ・下地 誠(嘉数 登代理) ・内間 玄(島袋 善明代理) ・安藤 陽 ・石川 康成 ・国吉 孝博 ・館 圭輔 ・大嶺 辰雄(長嶺 光男代理) <p>(欠席者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下地 芳郎

(4) 検討委員会における主な意見

検討委員会における主な意見及び対応結果を以下に整理した。

① 第1回検討委員会における主な意見と対応

■ 「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」の位置づけ

- ・平成8年のSACO最終報告と平成18年の日米安全保障協議委員会(2+2)について記載があるが、その間の経緯が書かれていない。平成11年の「普天間飛行場の移設に係る政府方針」閣議決定、平成14年の「沖縄振興計画」の策定及び国県市が連携して跡地利用に取り組むと定められた事項を追記してはどうか。

⇒「1)基本方針の策定等」に「普天間飛行場の移設に係る政府方針」及び「沖縄振興計画」について記載。

■ II 跡地の将来像

- ・「II跡地の将来像」の「2.揺るぎないまちづくりの方向性」に緑の保存・創出等の記載があるが、環境の保全には様々な主体が関わることが想定されるため、関係団体との連携等について追記してはどうか。

⇒当項目の具体の方針を示す「III-1 1. 2)沖縄振興の舞台となる『みどりの中のまちづくり』」に関係団体との連携について記載。

■ III-1 環境づくりの方針

1. 跡地の将来像

- ・今後、脱炭素の実施状況が投資先を検討する指標となるため、脱炭素の達成を目指すことで普天間飛行場跡地にも投資家の注目が集まる。そのため、普天間飛行場跡地では、先行して脱炭素を実現する目標を掲げることも検討してもらいたい。

⇒脱炭素化のモデルとなるまちづくりを推進することを記載。また、「低炭素」から「脱炭素」文言を修正。

■ III-2 土地利用及び機能導入の方針

- ・総合交通体系の計画見直しの動き等、中南部都市圏の中心として、圏域の動向を見ながら位置づける必要がある。

⇒「2. 1)大規模公園エリアの中核となる沖縄振興コアの形成」の沖縄振興コアについて、県土構造の再編に資する中南部都市圏の中心となる空間であることを記載。

■ IV 空間構成の方針

- ・水、緑、自然を最大限活用し、様々な要素を取り入れながらまちづくりを進めると記載されているが、「3. 要素別の『配置方針』の取りまとめ」では、土地利用ゾーン配置の次に緑地空間配置という構成になっている。緑地空間配置を優先するとわかるよう、順番を入れ替えてはどうか。

⇒検討の手順を明記するとともに、緑地空間配置が初めになるよう「3. 要素別の『配置方針』の取りまとめ」の構成を入れ替え。

⇒土地利用ゾーン配置、交通網配置の考え方において、緑地空間の配置を踏まえることを追記。また、土地利用ゾーンの配置パターン、交通網の配置パターン図に緑地空間配置を明示。

⇒「4. 『配置方針図』の作成」において、「配置方針図」の作成にあたって緑地空間を優先することを記載するとともに、配置方針図の作成イメージ図を追加。

- ・土地利用ゾーン配置の考え方の冒頭の説明に、沖縄振興コアや大規模公園エリアと土地利用の関係等の説明が抜けている。

⇒冒頭に沖縄振興コアの形成について記載。

- ・居住ゾーン配置として、旧集落や並松街道等の説明が不足していると感じる。

⇒居住ゾーン配置については、「歴史の気づきとして活用する」ことを記載済。ご意見を踏まえ、「III 計画づくりの方針」において、「景観要素の継承」について記載。

■ V 今後の取組内容と手順

- ・普天間飛行場跡地では、先行して脱炭素を実現する目標を掲げることも検討してもらいたい。【再掲】
- ・総合交通体系の計画見直しの動き等、中南部都市圏の中心として、圏域の動向を見ながら位置づける必要がある。【再掲】
- ・中南部都市圏の中心である普天間飛行場跡地が果たす役割を明確にし、普天間飛行場跡地からみた広域のビジョンを国・県に提案していくことも検討してはどうか。

⇒「2. 2) ①取組内容の具体化」に県土・中南部都市圏全体での取組等の動向を捉えることについて記載。

- ・具体的な跡地利用を見据えた考え方の整理として、地権者の合意形成のしくみづくりを計画に記載してはどうか。
- ・跡地利用を進める上では、地権者の合意形成が大事であり、魅力あるまちづくりを計画することが地権者の合意形成につながる。

⇒「3. 2) 地権者の協働による土地活用に向けた取組」に地権者の意向醸成等に関する取組について記載。

- ・土地利用の検討は、戦略的に返還前の早い段階から検討すべき。

⇒「3. 6) 機能誘致等に向けた取組」に戦略的な振興拠点形成のあり方の検討について記載。

- ・今後の取組内容について、環境アセスメントについても記載してはどうか。

⇒「4. 跡地利用計画の策定」の「1」②跡地利用計画の策定に向けた計画内容の詳細化」に環境アセスメントについて記載。

② 第2回検討委員会における主な意見と対応

■ I 跡地利用の目標と実現に向けた取組

- ・沖縄県及び宜野湾市の関連計画・施策の取組状況等について情報共有。

⇒「新たな沖縄振興計画」はR3.10公表の「中間取りまとめ」からR4.1公表の「(素案)に対する答申」の内容を確認。

⇒その他関連計画等について、最新の情報に更新。

■ III 計画づくりの方針

- ・方針として適切な箇所に、脱炭素やSDGs等のキーワードを記載すべきでないか。

⇒キーワードを追記。

- ・今回の更新では、公園・緑地と先端的な研究施設等の都市的土地利用が融合した「大規模公園エリア」の新たな概念を打ち出したことが大きなポイント。計画全体として、このポイントをしっかり訴求できるよう、強調した記載が必要。

⇒「III-2 2.1) 大規模公園エリアの中核となる沖縄振興コアの形成」、「III-2 3. 2) 振興拠点ゾーンの形成」の概要文を修正。

- ・脱炭素と低炭素の表記が混在しているため、確認のこと。

⇒「III-2 3. 4) 居住ゾーンの形成」の「低炭素住宅」の記載以外は、すべて「脱炭素」であることを確認。「低炭素住宅」はひとつの用語として使い分けているため、修正不要なことを確認。

■IV 空間構成の方針

- ・「2. 1) 計画の前提となる活用すべき自然・歴史特性の配置」の「④水」の「図-5 水に関する配置状況」は、本地域の地下水系のみ表記されている。表流水や洞穴、湧水位置も図示してはどうか。
- ・同図について、大山タイモ水田に散在する湧水のポイントをいれることと、表面水流域と地下水流域は異なるため、誤解されないよう適切に修正すること。

⇒説明文及び図表を修正。

- ・「配置方針図」等に地域（コミュニティ）のまとまり等も重ねて示すことで、一般の人も返還後のまちづくりに興味を持ちやすいのではないか。
- ・宜野湾市の地名には字・小字があり、土地の記憶が残る地名は歴史的な財産。是非計画書に表記いただきたい。

⇒「2. 2) 活用すべき自然・歴史特性の重ね合わせによる配置の確認」の「図-6 既存緑地と旧集落・重要な文化財の区域との重ね合わせ図」に字図を重ねて修正。

- ・公共交通軸（鉄軌道）のルートは、県公表の計画内容を踏まえ、R58合流ルートとする。

⇒「配置方針」、「配置方針図」を修正。

■ V 今後の取組内容と手順

- ・西普天間住宅地区跡地 では 返還前に文化財調査が十分に行えなかったことから、返還後の調査で明らかになった文化財の保全・活用等で都市計画変更が生じた。普天間飛行場の跡地利用においても文化財等の調査に多くの時間を要することが課題。
- ・環境補足協定で定められている、返還日の150労働日前からの調査期間で文化財調査を完了するのは困難であるため、それ以前の立ち入り調査が必要であることを明記すべき。
- ・返還前の立ち入り調査には現規定変更を伴うため、外務省、防衛省等との交渉が必要であり、早期から取り決めを進めていく必要がある。
- ・文化財調査と同様に環境アセスメントも一定の調査期間が必要。
- ・「軍転協」から、返還合意後極力早期からの立ち入り調査を行えるよう継続して要望しているとのことだが、重要な視点であることから、沖縄防衛局には積極的に取り組んでいただきたい。その旨は、計画書にも記載してはどうか。

⇒「3. 3) 立ち入り調査による現況把握の促進」の「②早期の立ち入り調査の実施」に「関係機関への要請活動」と記載済。

- ・沖縄県全体の脱炭素化に向けて、中南部と北部の連携ができるような県土全体の未来図を提案できないか。そういったイメージも入れつつ、普天間飛行場の跡地利用が沖縄県全体でどのような役割を果たすのか、位置づけを明確にしてはどうか。

⇒「2 2) 『計画内容の具体化』段階等における『行程計画』の更新及び実行」の「①取組内容の具体化」の2点目 記載を、「県土・中南部都市圏全体」から「県土全体」と修正することで、北部圏域を含む県土全体であることを強調。

- ・「国家プロジェクトの導入」など、各取組の概要文(枠で囲まれた箇所)に適切にキーワードを記載すること。

⇒「3. 4) 広域的な都市基盤整備にかかる計画の具体化」及び「3. 5) 『計画づくり』の推進に向けた継続的な取組」の概要文を修正。

- ・今回の更新では、公園・緑地と先端的な研究施設等の都市的土地利用が融合した「大規模公園エリア」の新たな概念を打ち出したことが大きなポイント。計画全体として、このポイントをしっかり訴求できるよう、強調した記載が必要。【再掲】

⇒「3. 4) ①国家プロジェクトの導入に向けた取組の推進」の1点目、「3. 6) ①戦略的な振興拠点形成のあり方の検討」の2点目の記載を修正。

- ・事業だけではなく、特区を含めた制度導入についても記載してはどうか。

⇒「3. 4) 広域的な都市 基盤整備にかかる計画の具体化」の「①国家プロジェクトの導入に向けた取組の推進」、及び「3. 6) 機能誘致等に向けた取組」の「①戦略的な振興拠点形成のあり方の検討」に、しくみづくりや制度活用 等について追記。

- ・琉球石灰岩層を支持層とする場合の技術的な検証が必要ではないか。

⇒「3. 5) 『計画づくり』の推進に向けた継続的な取組」の「①自然・歴史特性の保全・活用方策に係る計画の具体化」の記載を修正。

■イメージスケッチ

- ・イメージスケッチについて、大規模公園のイメージが伝わってこない。普天間飛行場の跡地利用では、緑や水はもちろんリゾート環境の中で研究開発ができることで新しい創造が生まれ、また研究者は芸術的なものが好きであることから、芸術的な雰囲気があるとよい。フランスのソフィア・アンティポリスを参考してはどうか。
- ・情報量が多く、枠に分かれているが、境がぼやけて一つの絵に見えてしまう。
- ・「並松街道の継承」のキャプションは、「首里城と普天満宮を結ぶ並松街道の継承」とすること。
- ・海が見えるパースがあるとよい。緑豊かな居住地環境の中で働き、仕事が終わったら海に行くとか海辺を散歩するとか、そういったオーシャンビューのアングルとした方がよいのではないか。

⇒イメージスケッチを修正。

- ・パンフレットのイメージスケッチには文章ではなく、これまで出てきたキーワードを入れてはどうか。

⇒イメージスケッチのキャプションや説明文に、計画書とリンクするキーワードをより多く記載。

■パンフレット

- ・今回の更新では、公園・緑地と先端的な研究施設等の都市的土地利用が融合した「大規模公園エリア」の新たな概念を打ち出したことが大きなポイント。計画全体として、このポイントをしっかり訴求できるよう、強調した記載が必要。【再掲】
- ・パンフレットに、脱炭素やSDGs等のキーワードが入っていない。最先端の企業誘致をしたい場合には脱炭素は魅力的なものとなるので記載する必要があるのではないか。
- ・パンフレットの最後のページ(今後の取組内容と手順)が計画書と整合していない。

⇒「計画づくりの方針」の表記については、計画書の項目記載(箇条書きから、概要文(枠で囲まれた箇所の記載に変更。

- ・イメージスケッチをパンフレットに掲載するのであれば、小さくなることを想定した方がよい。
- ・パンフレットは字が多すぎる印象である。「計画づくりの方針」を小さくし、イメージスケッチ等は大きくした方がよいのではないかと。時間の経過等はどうしても書かなければいけないことがあるかもしれないが、細かい哲学のようなところは、細かく書いてもあまり読まれないのではないかと。むしろ絵でわからせた方がよいのではないかと。

⇒パンフレットを修正。

③ 第3回検討委員会における主な意見と対応

■委員会案について

- ・全体的に機能導入や拠点形成等のハード面に着目した内容となっている。委員会案18ページ「3) 環境の豊かさが持続するまちづくり」と28ページ「3. 多様な機能の複合によるまちづくり」に、OECD(経済協力開発機構)から示されているグリーンリカバリー等のソフト面の考えやインクルーシブな視点を取り入れたまちづくりを進めることを加筆してはどうか。
- ・「①多様なライフスタイルの実現に向けた住宅地開発」も関連するのではないか。

⇒「Ⅱ 2. 3) 環境の豊かさが持続するまちづくり」の文言を修正し、インクルーシブというキーワードを記載。

⇒「Ⅲ-2 3. 4) ①多様なライフスタイルの実現に向けた住宅地開発」の文言を修正し、ユニバーサルデザインというキーワードを記載。

- ・全体計画の中間取りまとめ(第2回)では、返還が後ろ倒しになったことにより生まれた時間を有効に活用することが重要である。引き続き、戦略的・能動的に跡地利用計画の深化を模索し続けることが必要であり、当面は次の戦略性を持った行動が求められる。

- ①広域的な交通基盤に関する計画づくりが進むので、常に跡地利用計画との調整・整合を図ることを働きかけること
- ②普天間飛行場跡地利用は、地元のみならず県土全体・国土全体においても重要であるので、沖縄県の振興計画や国の政策との連携を積極的に模索すること
- ③未検証のまま懸念されている課題、例えば、土木建築工事が琉球石灰岩層や地下水に与える影響等に対する検証と実効性ある解決策を模索すること
- ④時間がかかることが懸念されている課題、例えば、文化財調査、広域的施設の用地確保、跡地活用のための人材育成等に対するプログラムの検討や試行的実践等を模索すること

以上の内容を委員会案のおわりにメッセージとして入れたらどうか。

⇒委員会案に「終わりに -第2回中間取りまとめからの挑戦-」の章を追加し、委員長からのメッセージとして、当面の取り組んでいくべき事項等について記載。

- ・配置方針図に「※検討中の図であり、決定したものではありません。」と記載があるが、検討の余地がまだ残っている印象を受けるため、現時点での検討は全てやりつくしたことが伝わる表現にした方がよいのではないか。

⇒「『全体計画の中間取りまとめ(第2回)』の位置づけ」の「2. 4) ②今後の新たな計画条件にもとづく柔軟な計画更新を前提」にて、策定時点の最適版であることを記載済。

■イメージスケッチ

- ・西普天間住宅地区跡地は、沖縄健康医療拠点として事業が進められているが、イメージスケッチで普天間飛行場跡地利用との連続性や連携等を示さなくてよいのか。

⇒普天間飛行場跡地利用とは、都市拠点ゾーンと連携することを考えている。配置方針図には赤字で沖縄健康医療拠点と示しており、「Ⅲ-4 1. ②『沖縄健康医療拠点』との連携を考慮した機能導入とネットワークの形成」に沖縄健康医療拠点との連携について記載。

- ・振興拠点ゾーンのイメージスケッチ右下（創造性を刺激する開放的な環境）について、真ん中にあるアート作品がボールに見え、またランニングしている人がいるためスポーツをイメージしてしまう。研究者は芸術を感じる中で創造性が生まれる。国際的にいろいろな人が集まって研究をするイメージとして、地球儀を芸術的にアレンジしてはどうか。
- ・沖縄県は地理的特性を生かして植物工場を進めているので、植物工場を入れてほしい。しかし、温室を描けば良いということではない。
- ・都市拠点ゾーンのイメージについて、中段左にLRTが描かれている。LRTは市内を走る路面電車に見えてしまうので、ここではビルの間から鉄道が走っている等、都市間交通の大型の電車を描いてもらいたい。
- ・イメージスケッチは緑がたくさん描かれているが他との違いが無く、イメージが伝わってこない。森の中にいるような感じをもう少し出せるのではないか。
- ・イメージスケッチだが、宜野湾らしさが伝わってこない。例えば、普天間宮やサンダンカ等の地元の花、綱引き等の無形文化財も入れてはどうか。

⇒イメージスケッチを修正。